

『会陽の起源への挑戦』

17年目の中間報告

平成20年2月13日

岡山県立図書館

デジタル岡山大百科 活用講座
岡山民俗学会会員 丸谷憲二

『岡山県の会陽の習俗』総合調査報告書

岡山県教育委員会 平成19年3月発行

- 昨年、平成19年は私の研究テーマである『会陽の起源への挑戦』にとって重要な、記念すべき年でした。
それは、16年間にわたる一人ぼっちの研究活動が公的に認められたからです。
- 岡山県教育委員会の文化庁への調査報告書『岡山県の会陽の習俗』総合調査報告書に参考文献として、私の2つのHPが採用されました。
 - ① 『会陽って何だろう』 デジタル岡山大百科
 - ② 『宝木伝説』

『備前西大寺縁起の前奏』

—船運・観音・真言律—

2007年5月19日 吉備地方文化研究所 中世史研究会 刈米 一志

- 備前西大寺の本格的な縁起研究として就実大学の刈米一志 准教授の研究発表がありました。この発表は藤井 駿 岡山大学教授の『備前国金岡庄の歴史について—西大寺市の中世史の研究—』
- 昭和28年発表を補説する本格的な備前西大寺の研究です。

論点

- ① 寺院の下部組織としてハンセン病患者を構成員とする集団の勢力か。
 - ② 「犀角」は、仏具「如意(犀角如意)」であって、竜王の所持する「如意宝珠」の比喻である可能性が極めてたかい。
同時にスッタニパータの「犀角」の比喻か。
- 従來說「777年・岡山県にインド犀生存説」
 - 南都(奈良)西大寺が真言律宗(真言宗+律宗)の総本山です。
 - この発表にも、私のHP「宝木伝説」が参考サイトとして採用されました。

如意宝珠



- ・ 横尾山静円寺光明院 の如意宝珠です。
- ・ 西大寺観音院では本尊の体内仏(秘仏)です。
- ・ 如意宝珠は cintamani の訳。「これを持つ人にあらゆる望みをかなえてくれる宝珠」の意です。観音・緒尊の持ち物として、それら緒尊の神威力の象徴とされました。元来は、ヒンドゥ教神話における珠玉です。如意宝珠 の中央に「舎利」を入れ「周囲を香と薬(牛黄)」で包み、その上を「金銀・漆」で仕上げます。犀角を追加したものが犀角如意です。

「会陽」と呼ばれる裸祭

- 岡山県内を中心としてわずかに伝承されている「会陽(えよう)」と呼ばれる裸祭は、年頭に行われた修正会(しゅうしょうえ)の結願(けちがん)行事です。
- 結願行事には、修二会(東大寺)・オコナイ・ダダオシ(長谷寺)・どやどや(四天王寺)・鬼祭り等があります。
- それが、裸の奪い合い行事に変化していったとされています。私は変化していったのではなくて変化させた仕掛け人がいたと考えます。企画立案です。
- 備前西大寺の寛文元年(1661)の縁起(寛文本)に天正年中(1573~92)の会陽の記録があります。
「衆中へ投あたふといへとも、取戴ものなし」

修正会とは

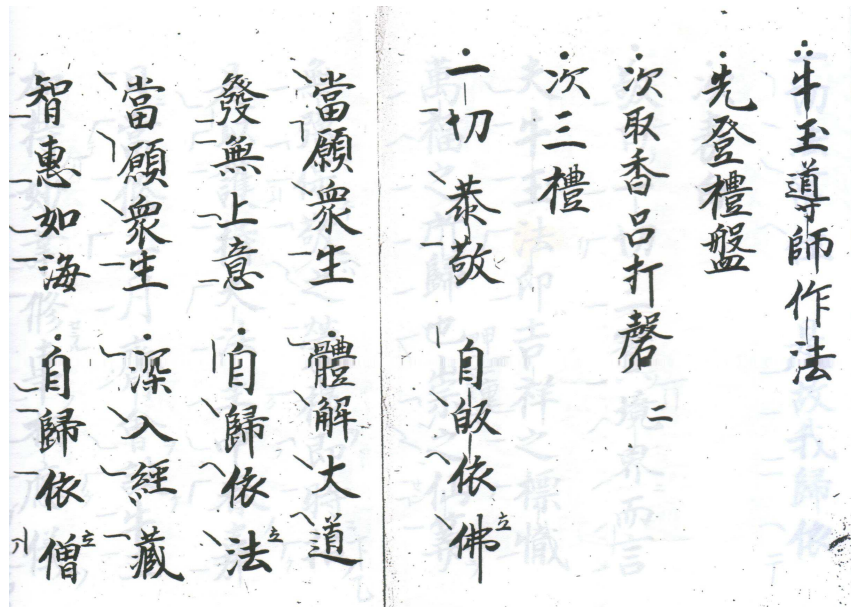
- 「**修正会**(しゅしょうえ)」とは正月に修する大法会(ほうえ)のことです。修正会の開始は、神護景雲元年(767)の国分寺における七日間の「**吉祥天悔過**(きっしょう てんけか)」です。この儀式の時の本尊とする仏、菩薩により「**薬師悔過・吉祥天悔過**」などと呼ばれます。
- 「**悔過**(けか)」とは、「仏前に**諸々の罪、けがれを告白し懺悔**(さんげ)し、それによって福德を得んことを求める法会」です。
- 真言宗においては、天長4年(827)に東寺と西寺において修せられた**薬師悔過**法要により広く行われるようになりました。

西大寺観音院では、旧暦正月1日から14日までが修正会。
修正会結願の14日深夜に会陽が行われます。
現在は、2月の第三土曜日です。

備前西大寺・修正会の成立

- 西大寺観音院における修正会の成立を示す古い記録はありません。寛文年間に記された縁起の中に「開山上人 **和州長谷寺**の儀式をうつして、此寺において・・・修正の行をなし」とあります。
- 修正会に使用されている『**後夜導師作法奥書**』に「明応4年(1495年)・・・権少僧都喬円(ちようえん)57歳書写也」とあります。
- 『**神明帳**(じんみょうちょう)』も、1495年に喬円により書写されたものです。喬円の記録は見つかりません。
- 西大寺観音院の『**金陵山修正会法則**』は、宝暦年間(1751～1763)に**雲翁**が改定したものです。
- **雲翁**が改訂した西大寺の声明は「**高野山の南山進流**」です。天台宗の**大原流説**があります。

南都(奈良)西大寺の 後夜導師作法



- 南都(奈良)西大寺の**後夜導師作法**です。
- 南都(奈良)西大寺は、真言律宗の総本山です。
- 真言律宗とは、(真言宗+律宗)のことです。
- 長谷寺の修正会法則との比較研究が待たれます。
- 稲谷祐宣先生は、「西大寺観音院の修正会は、天台宗の**法華懺法**(ほけせんぼう)の写しである」と教示されます。

牛玉寶印

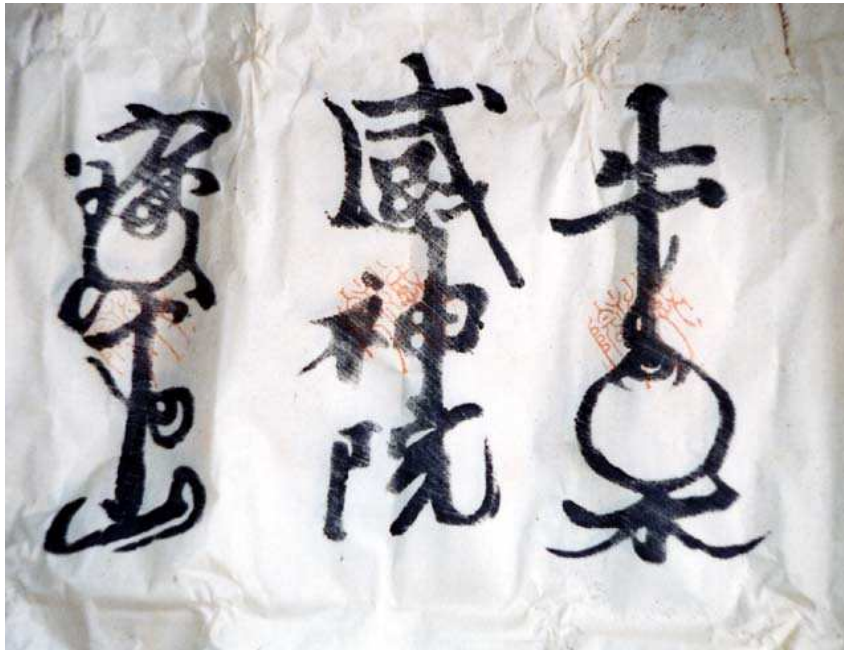
- 岡山県内の会陽の特色は、「牛玉宝印(ごおうほういん)」の護符の配布から始まったとされています。
- 「牛玉宝印(牛王宝印・牛玉宝命)」は、寺社の修正会・修二会などの新春の祭りで刷られ、信者に配付される護符の一種で、中世・近世には、しばしば起請文という誓約の文書の料紙に用いられました。
- 略して**牛玉**と云い、俗に**オフナゴ**と称します。中古以来の風習です。古代のインド人にとって、牛は仏教世界を指し示すために、この世に派遣された**仏の使者**、もしくは**仏そのもの**でした。古代インドの**サンスクリット語**では、牛のことを「**GO ゴー**」と言っていたので**牛玉**と書いて「**ゴーオウ**」と読みます。
- 牛玉宝印を厄除の護符と為し**障礙**を譲ふために之を**門戸**に貼ります。牛窓町の町並みに貼られている**牛玉寶印**が知られています。
- 『備陽記』(享保6年・1721成立)に金陵山西大寺の宝物として「**牛王蒔絵箱入**」の記録があります。

牛窓町の牛玉寶印



- 牛玉宝印を厄除の護符と為し**障礙**を譲ふために之を**門戸**に貼ります。
- 県内では、瀬戸内市牛窓地区の家々に貼られている牛玉宝印が知られています。
- 金剛頂寺・妙福寺・本連寺の牛玉宝印が貼られています。

木山寺の牛玉寶印



- 古代のインド人にとって、牛は仏教世界を指し示すために、この世に派遣された仏の使者、もしくは仏そのものでした。
- 古代インドのサンスクリット語では、牛のことを「GO ゴー」と言っていたので牛玉と書いて「ゴウオウ」と読みます。

牛玉寶印紙の古式作法

- 牛玉宝印の古式作法は、「東大寺にのみ伝承」されています。片桐棲龍堂薬局(大阪府堺市)では、東大寺の「お水取行法」として知られる二月堂の修二曾行法用として「牛黄」を毎年寄進しています。
- 牛玉宝印は、牛黄を溶かした朱色の墨液を使用し、毛筆にて古代紙(水解紙)に「牛玉宝印」と書いて、紙の護符として配布したことに始まります。
- 現在では東大寺にのみ牛玉宝印の古式作法が伝承されています。皇室への献上護符です。古式作法は、「泥紙に膠(にかわ)を加えた墨に牛黄を混ぜて」刷ったものです。
- 岡山県には古代和紙(泥紙・水解紙)の製法は伝承されておられません。

牛玉寶印紙の古式製法



- ・ 東大寺では古代和紙の製法である「泥(赤土)を使用した泥紙(通称泥入り)」を使用しています。
- ・ 「泥紙に膠(にかわ)を加え牛黄を混ぜる」ことに意味があります。
- ・ 泥紙とは「泥入り間似合い紙」といわれる襖用紙です。
- ・ 一般の和紙は簀(すのこ)を動かす「流漉き」ですが、この紙は簀(すのこ)をあまり動かさない「溜漉き」という漉き方です。
- ・ 漉いた紙は板にはさみ一晩プレスします。
- ・ プレスが終わると、板に貼り天日乾燥します。

牛黄加持(牛王加持)

- 西大寺観音院の「会陽に参加した人の禪(ふんどし)を妊婦の腹帯に使用すると安産となる」との伝承は、「牛黄加持」が起源です。民間信仰説・俗信説があります。
- 「牛玉(ごおう)」の起源は、動物性生薬の「牛黄(ごおう)」です。牛黄は、牛の胆嚢管中に稀に発見される「結石」を乾燥させたもので、古来より命を養う「上薬」です。
- 「金光明最勝王経」に「瞿盧折娜(くろせつな)」の名で収載されています。真言宗全書第4巻・大日経疏義述第二十に「牛黄・如意珠」とあります。
- 牛王加持(ごおうかじ)とは、「産生の時、准胝観音の咒にて牛黄を加持して之を産門に塗らしむる法」です。「安産加持の作法」です。

牛黄の薬効・牛の胆石



牛黄にはビリルビン系色素70～76%、胆汁酸7～10%、コレステロール、アミノ酸類、その他の成分が含まれており、強心、鎮静、鎮痙、造血、解熱、解毒などの作用が認められています。

感染症などの熱性疾患で高熱、意識障害、けいれんの発作などがあるときや、慢性肝炎、小児の疳(かん)や大人の中風、高血圧症、脳卒中による意識障害、狭心症などに効果があり、特に肝臓と心臓の機能増強を目的として頻用されます。

牛黄の薬効

- 牛黄にはビリルビン系色素70～76%、胆汁酸7～10%、コレステロール、アミノ酸類、その他の成分が含まれており、強心、鎮静、鎮痙、造血、解熱、解毒などの作用が認められています。
- 感染症などの熱性疾患で高熱、意識障害、けいれんの発作などがあるときや、慢性肝炎、小児の疳(かん)や大人の中風、高血圧症、脳卒中による意識障害、狭心症などに効果があり、特に肝臓と心臓の機能増強を目的として頻用されます。
- 「奇応丸」「救命丸」などの子供の薬、「六神丸」「救心」といったような心臓の薬など、日本の古くから家庭薬にも使われています。また肝炎、肝硬変の薬として有名な中国の薬、片子廣(へんしこう)の主剤です。

会陽の語源 『供養会』

- 江戸時代の会陽に関する文献は少なく、現存する文献は下記のように表記しています。
- 『吉備前鑑』 「えよう押」 元禄年間(1704)
- 『金山詣』 「ゑよふおし」 享保9年(1724)
- 『中陵漫録』 「会養」 寛政7年(1795)
- 『吉備温故秘録』 「お栄耀」 享和年中(1803)
- 『木下幸文日記』 「ゑいよう、ゑいよう」 文政2年(1819)
- 『甲子夜話(かっしやわ)』 「えいようなう、押しそうなう」 文政4年(1821)
- 「掛け声を語源」とする木下幸文・松浦静山説があります。しかし、現在の掛け声は「わっしよい、わっしよい」です。200年間で掛け声は変化しないと考えます。

『備前会養』

- 重要なのは、1795年(寛政7)の記録『中陵漫録』の「備前会養」です。著者は本草(漢方薬)学者の佐藤中陵です。
- 江戸青山の著名な本草(漢方薬)学者、佐藤中陵は1794年11月に備中松山藩の招きで松山へ着ました。備中松山の本草と物産調査の為です。その時に備前西大寺の「備前会養」について記録しています。本草学者が実地に見聞したものであり、正確な記録です。
- 「西大寺の会養に逢ふ時は、其年、果して吉事ありと云。尚此辺の人に聞て、其是非をしるべし。」
- 『備前会養』つまり会陽の語源は「会養」です。仏教学の「供養会」のことです。
- 「会養」とは、「供養佛・供養神の大祭」のことです。(レ点を付けて、お読み下さい。)

中陵慢録・「備前会養」

江戸青山の著名な本草(漢方薬)学者、佐藤中陵の1795年(寛政7)の記録では、

『備前岡山の東三里に西大寺と云寺あり。

寺の後の山に檜の木に似たる木十六本ありと云。

毎年臘月晦日の夜に、住寺の僧、窃に登りて、此木を二本切取り帰り、長さ一虎口に切り、是を心木と云。』とあります。

中陵漫録 卷之五

○火籠

世俗、こたつと云字をしらず、按ずるに、陰鏝が詩に、火籠恒煖脚。又高啓が梅雨詩に、窓寒頓使使_三執扇。衣濕類催換_三火籠。是れ乃こたつなるべし。又七輪と云本字をしらず。按ずるに、徴捨秘録の八卦_三とあるは、八角の七輪なるべし。

○備前会養

備前岡山の東三里に西大寺と云寺あり。寺の後の山に檜の木に似たる木十六本ありと云。毎年臘月晦日の夜に、住寺の僧、窃に登りて、此木を二本切取り帰り、長さ一虎口に切り、是を心木と云。紙にて包み、水引にて三処結び、布にて巻き、此夜より護摩をたきながら米一粒づゝ入て巻く。是を御福と云。凡毎日二十五座づゝ護摩をたく事如此。正月十四日の夜の九時に至て、御福を巻き終るなり。此夜、観音堂の外に、八九寸角の柱を四本立て、其間を厚板にてかすがへどめにして、近国近郷の人、幾万とも限りなく来り、門前の町に宿し、粗布の下帯を新に求め、皆裸になり、髪を散し、手布にて鉢巻をして出て、其柱の間を左右に推し入て、勇力をはげみ、皆力を闘しむ。是を地推と云。九時に至ては堂の前に聚り、此時、上より其御福を落す。みな是を相争て、人の上に登り、又其上に登りて、二重にも三重にも相重て相争へども、手に入る事なふして気絶をする者あり。前は川ありて水を汲み灌ぎかくれば、人氣盛にして物を蒸すが如く、勢の立つ事煙りの如し。其御福も皆細に引きさかれ、只其心木を得る者は、門外に走れば、人

是を追て相争ふ者なし。身分の軽々しき者が得れば、門前の富家を見立て走り入て、此御福を譲るれば、白銀五枚も得ると云。其譲り受たる者、翌日、寺に奉物を供す。其奉物は三石三斗七升づゝのすわりを備へ、其外、作花の類、其人の志次第にて備へ物あり。又身分相応の人、其御福を得れば、其奉物数十金を擲て美くして供物を為す。此兩三日の間、見物の人尤も夥し。此門前の者は、臘月の晦日には、他処より至て静にして、此正月十四日の夜を晦日として、諸の商売取引相私、此夜に相治むと云。此夜、讃州志度の浦に数千人相聚て、此人声を遙に聞て、首をかたむけ指にて耳を塞ぎ、是を見て其耳を掘りて、相共に相争ふて、終夜、互に耳を掘て夜を明けけり。凡遠国近在、是を見物に来て、遙に人声を聞けば、此年吉祥なりとて、一声も耳に入れば塞ぐ。是を人に奪んとして、其争ひ大なるは如是。此近国の人云く、西大寺の会養に逢ふ時は、其年、果して吉事ありと云。尚此辺の人に聞て、其是非をしるべし。

会陽の初見

- 会陽の初見は安政元年(1854)です。
 - 『御穿鑿者口書(おんせんさくしゃくちかき)』
 - 瓶井山会陽の記録
 - ゑよふ 文化11年(1814)
 - 栄耀 天保元年(1830)
 - 会陽 安政元年(1854)
-
- 『御穿鑿者口書』は池田家文書の法制 訴訟文書にあります。
穿鑿所(せんさくしょ)とは江戸時代に罪人を取り調べる白州のことです。
-
- 会陽は「ゑよふ」の当て字であり字音仮名遣いです。
 - 岡山県で初めて発行された新聞、山陽新報の1879年(明治12年2月7日)付の紙面「論説 西大寺村観音会陽 能利害」に採用されました。
『絶妙の当て字』であるがゆえに定着していきました。
 - 「一陽来復説」は鼓義算住職説であり、後追い説です。
 - 「陽(男)に会う」説は問題外です。

『四本柱』の語源・『四足』

- **四本柱**は会陽の起源を探る上での重要な要素です。結界と説明されます。重要なのは三尾寺の伝承です。四本の竹を立てて結界としています。地鎮祭(じちんさい)の四本の竹と同一形態です。
- 「**なぜ四本柱なのか。二本柱ではいけないのか**」を研究しました。
- 西大寺観音院蔵書『**宿曜経**(すくようきょう)』に解答があります。
- 易学では、天の周(めぐり)を360度に区分しますが、宿曜経では**108足**に割り付けます。
108足を二十七宿に割り付けると「一宿は四足」となります。

$$108/27=4$$

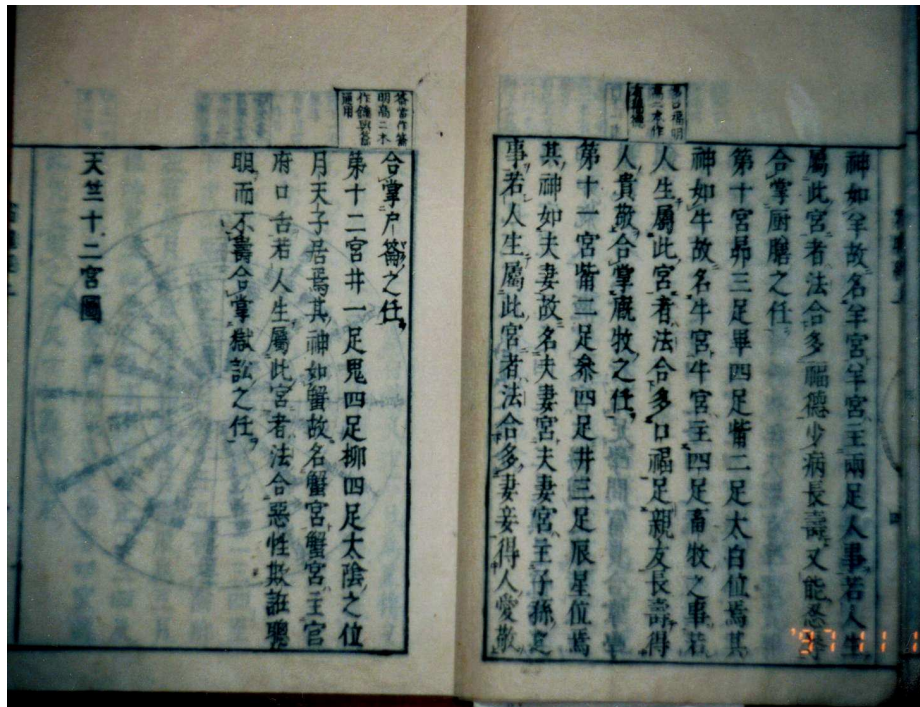
- 一般的な易学の二十八宿では無く、**古法二十七宿**を意味しています。
- 「**四足**」は**獅子宮**を意味します。**太陽の位、日天子**の居城です。
- この宮は、**官を加え財を得る事**を司ります。
- 足(たる)とは満ちる也、得る也と説明されます。

四本柱と四足



- ・ 平成4年2月11日の西大寺観音院・坪井全広住職の教示内容の中、最も重要な教示が、「**会陽には陰陽道は入っていない**」です。
- ・ 宿曜経に書かれていた七曜が当時の陰陽寮の上層部に注目され、公式の暦に記載されるようになり陰陽道から**空海の宿曜経**にとって変わりました。

四本柱・四足・宿曜經



宿曜經へのヒントは
日蓮宗総本山・中山
法華経寺（千葉県市
川市）の**四足門**（重要
文化財・室町後期作）
の**四足**という言葉と
の出会いでした。

会陽と宿曜経

- 四本柱から会陽と云う行事が、宿曜経をベースにして創作された行事であることがわかります。四本柱と言うのは、あくまでも俗称です。
- 除夜の鐘の108は、宿曜経の108足に由来しています。
- 大同元年(806)に空海が唐より宿曜経を含む大量の仏教経典を日本にもたらしました。
- 伊原仙太郎先生の五福説は、宿曜経の「四足・獅子宮」の「太陽の位、日天子の居城」、「官を加え財を得る事を司る」からの推定説です。

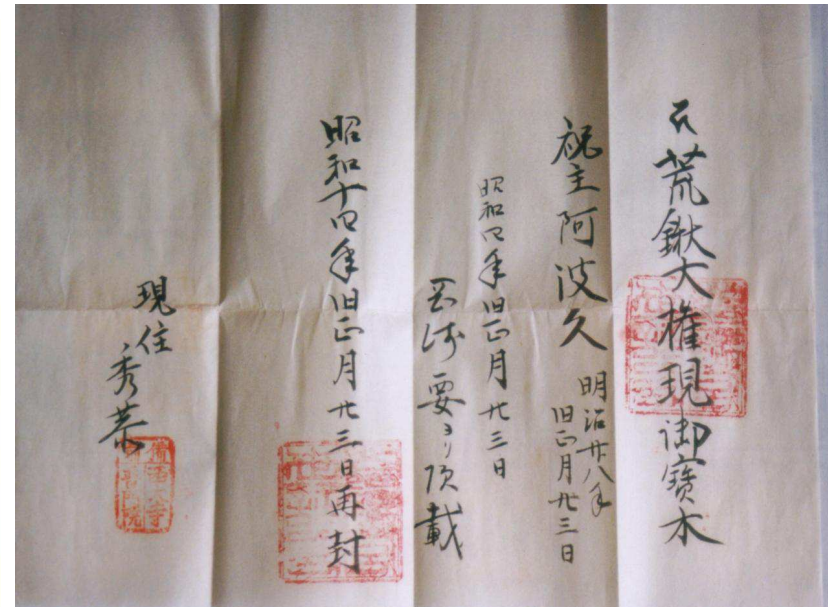
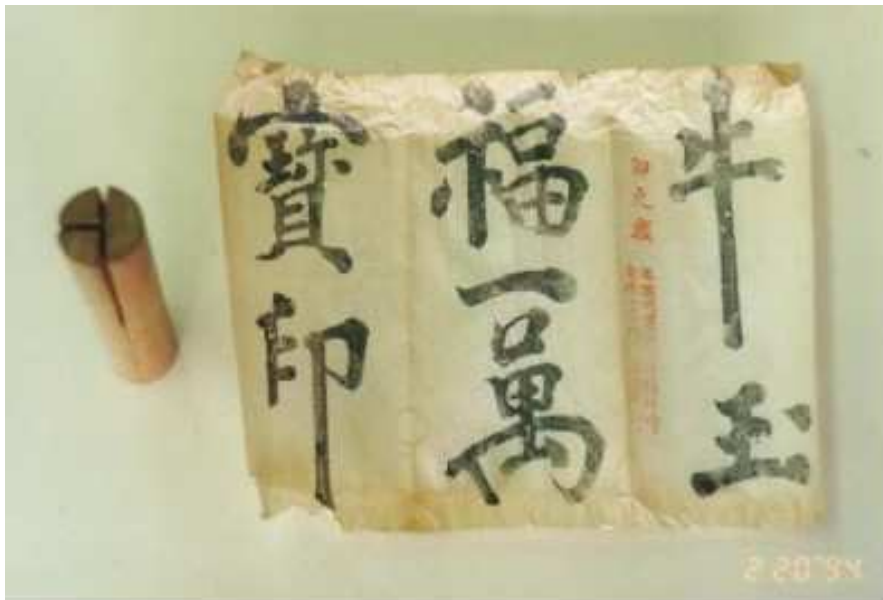
護符の名称

- 護符の名称はシンギに代表されますが多々あります。

御福・御福守	安住院 寛政4年(1792) 西大寺観音院 安政6年(1859) 金山寺・弘法寺・宝寿寺・林野安養寺 久井稻生神社(広島県三原市)
御福開祭	
御宝木(ごほうぎ)	西大寺普門院 明治27年(1894) 木山寺 大正7年(1918)
牛玉授け	長谷寺(鳥取県倉吉市)
神霊串坤 御玉串	神田稻荷 金田天満宮
幸魂串(さきみたま)	道通宮・沖田神社
福木祭・	忠魂寺(広島県双三郡)・宇善寺(真庭市)

西大寺普門院 明治27年(1894) 御宝木(ごほうぎ)

- リサイクルされている唯一の御宝木です。



木山寺 大正7年(1918)

龍脳香と塗香



- ・ 「龍脳香と塗香」
- ・ 回りの粉に注目して下さい。同一の粉は木山寺・禅光寺安住院・金舗寺普門院・西大寺観音院・園城寺の5ヶ所で発見されました。
- ・ この粉が真木に使用される正式な香です。
- ・ 龍脳香と塗香をブレンドしたものです。
- ・ ブレンドすることにより香りが強くなります。
- ・ この二つの香をブレンドするのが会陽の正式作法です。

『シンギ』の表記区分・初見

心木	弘法寺『修正会法則・心木用意』 大永乙酉年(1525) 『中陵漫録』 寛政7年(1795) 『東備郡村誌』 天保8~13年(1837~1842)
真木 御牛玉真木 御福真木	安住院 『真木用意秘口』 宝暦11年(1761) 弘法寺 明和9年(1772) 西大寺円満院 天明4年(1784) 金舗寺 慶応4年(明治元年・1868)
神木	吉備津神社 明治18年(1885) 准胝観音院 明治24年(1891)
信木	静円寺 天保14年(1843)
新木	伊勢神社(大森神社) 弘化4年(1847)
宝木 御福宝木	西大寺観音院 文政3年(1820) 西大寺観音院 明治16年(1883)

金陵山西大寺観音院

- ・ 文政3年(1820)



- 年号の特定できる最古の宝木です。
- 16年間探しましたが、これより古いものは見つかりません。

シンギの種類

形態より12種類に層別

シンギは形態から、12種類に層別されます。

- ① 樹皮を取り除いただけの丸棒
- ② 樹皮付き二分割
- ③ 丸棒
- ④ 丸棒二分割
- ⑤ 四角形 四種**供養**
- ⑥ 五角形 (下部 五角形)
- ⑦ 六角形 六壬神課(りくじんじげ)
- ⑧ 六角形二分割
- ⑨ 八角形 八方天供・八葉蓮華 **供養**護世八天法
八方天の供養法です。
- ⑩ 八角形二分割
- ⑪ 十二角形 十二天供・薬師十二神将 **供養**十二大威徳天報恩品
十二天法の供養法です。
- ⑫ 特殊 別途研究が必要 宝寿寺

久井稻生神社 四角形 四種供養



- ・ 久井稲生神社(広島県三原市久井町大字江木1)・御福開祭(おふくひらき)に注目しました。
- ・ 江戸時代までは神仏一体です。
- ・ 「金剛界曼荼羅供養会」には、「四種供養」として、「菩提心・灌頂・法・事業の四種」があります。
- ・ 四角形は岡山県の会陽にはありません。
- ・ 「御福」という共通用語が使用されており、同様の裸祭りです。裸の男たちが陰陽2本の福木を奪い合う広島県内随一の裸祭です。

会養・語源説の証明

- シンギの形態が供養法により決定されています。
- 八角形 八方天の供養法 供養護世八天法
- 十二角形 十二天法の供養法 供養十二大威徳天報恩品
- 千手山弘法寺 「金剛界曼荼羅供養会」

加工材の「工夫改善」という立場から解析しました。

- 一番古い形態は、一番素朴な樹皮を取り除いただけの丸棒です。
- 「樹皮を取り除いただけの丸棒」のシンギ、そして「齒木(楊枝・枝牛玉・齒ブラシ)」のある寺社が会陽の発祥寺社となります。

六角形・六壬神課

常光寺観音院(日比観音院)



- ・ 六角形のシンギは、会陽では與樂山 常光寺観音院(日比観音院)のみです。
- ・ 六角形は供養法では説明できません。
- ・ 六角形は六壬神課(りくじんじんげ)を意味しております。
- ・ **陰陽道**によるものです。
- ・ 奈良・平安の時代に陰陽寮と名付けられた公的機関がありました。
- ・ そこでは式占(ちよくせん)という占いが行われていました。

八角形・供養護世八天法



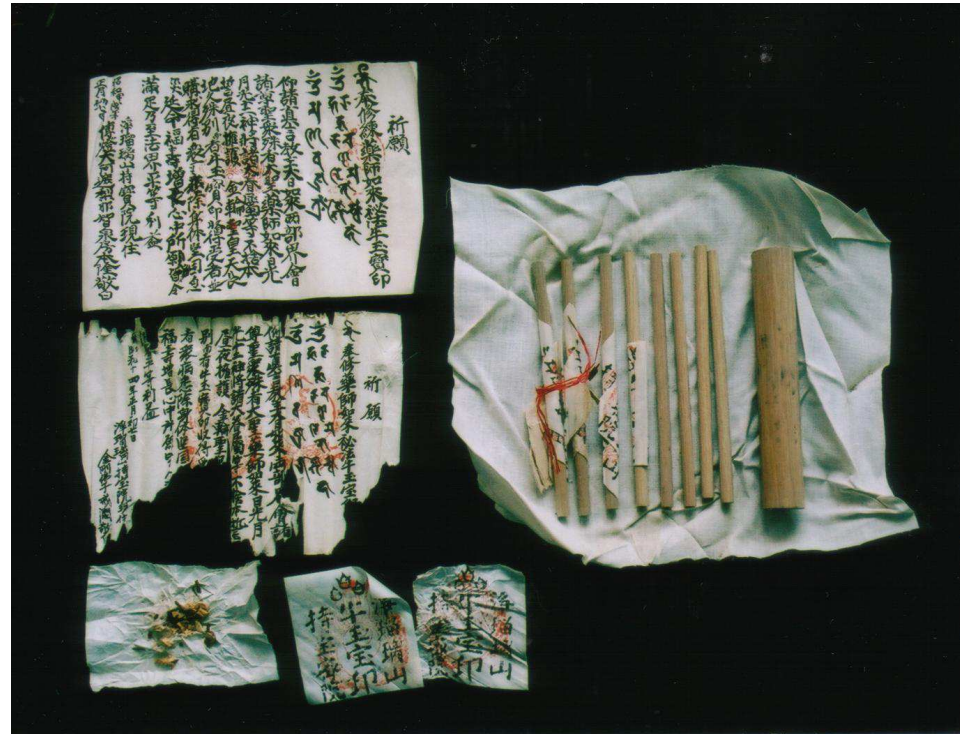
- 善通寺・元恩寺
- 岩倉寺・金剛寺
- 八角形は、供養護世八天法(くようごせはちてんぼう)によるものです。
- 八方天の供養法です。

十二角形

浄瑠璃山 薬王寺 持宝院

- ・ 十二角形は持宝院のみです。

「寺院を代表する漢方薬」を付与
伝承を最も正確に伝承している寺院。



シンギの字音仮名遣い(例)

- 平成19年1月3日の山陽新聞に岡山検定に関する問題があり、「神木・宝木・新木」より正解を選ぶ問題がありました。出題者の解答は伊勢神社(大森神社)の新木、吉備津神社・密教大事典の神木を間違いとし、**宝木を正解とするもの**です。
- 日本語では**宝木はシンギとは読めません。ホウキ**です。**シンと読むのは何語でしょうか。**
- 国語学の基礎として韻鏡学(いんきょう)・韻学があります。韻鏡の研究とは漢字音の研究です。中世以降韻学の中心議題となりました。日本の漢字音を知るための重要な資料です。
- 出題者が日本語の**字音仮名遣い**をご存知ないようです。

伊勢神社(大森神社)の新木



- シンギには、その年の新木(生木)を使用します。
- 自然乾燥はしません。
- 新木は重要な漢字です。
- 弘化4年(1847)の新木です。

シンギの語源・2説

- 「心木」説

(密教大事典の定義)

- 「牛玉宝印の杖」

「備前西大寺等に会陽の時授与する福杖は、俗に神木と称すれども、牛玉寶印の杖なり」

牛玉宝印を遠方へ投げるために、牛玉宝印に重りとして巻いた中心の木（同一の意味）

- 「仏像心木」への変化説

心木が仏像心木に変化。仏像心木に変化を証明するのが西大寺観音院の「宝木の由来伝説」です。

- 「真木」・「真那比木」説

大山祇宮(愛媛県大三島町宮浦)の生土祭の「赤土・真那比木」語源説です。

- ① 赤土拝載神事
- ② 生土祭
- ③ 福木神事と一連の祭りです。

赤土は、生土祭当日に、ご神体である安神山麓で赤土拝載神事を齋行。「赤土の付着した神印を神職・巫女の額に押す」仕草を繰り返した後、「真那比木」と称する福木を参拝者にまきます。

西大寺観音院「宝木の由来伝説」

○楊柳観音
 非大師詩來他門智證請來折紙毘舍利國疫病
 流行國王大臣歎之釋尊佛言念觀世音王臣隨教
 即時菩薩立城門上佛言上瓶水及楊柳枝大臣如
 是○菩薩以楊枝遍灑水國中人民免難同註○
 私云題下息災可知
 道場觀阿用通種子歎又梵號初字歎阿無罪樹
 楊柳也私云

- 江戸時代の伝承を基にして創作された重要な「**宝木の由来伝説**」があります。
- 「これは太陽神の牛王神(ごおうじん)のお姿を刻んだもので宝木(しんぎ)あるいは麻尼(まに)の宝木と申す尊いもの。これに祈願すれば**永遠の生命力**を感じ、衰運を盛運に変えることもできる。」とあります。重要なのは「**永遠の生命力**を感じ」との記述です。これは、「**ヤナギの生命力**」をベースにして創作されたものです。
- 西大寺会陽における最大の謎は、「**会陽に参加すると、その年は風邪を引かない。**」という伝承です。
- 国訳一切経・印度撰述部律部六の「十誦律卷第四十」に「楊枝の五利益、及び復五利益」として、「**風を除く**」「**熱病を除く**」とあり、
- 「心木は楊柳観音」、「枝牛玉は楊柳**枝**観音」を基にして企画立案されました。

横尾山 静円寺・信木

- 信木という字を使用しているのは、静円寺のみです。
- 天保14年(1843)



金剛界・胎藏界・金剛界曼荼羅供養会 千手山 弘法寺・真木

- 1772年(明和9)が読み取れます。もっと古い真木もあります。材質はネコヤナギでした。
- 弘法寺修正会法則に「南無楊柳枝・楊枝香水・楊枝守護・楊枝導師」とあり、これが、ネコヤナギを使用する理由です。



南無千手観世音菩薩... 弘法寺修正会法則... 楊枝香水・楊枝守護・楊枝導師... 弘法寺修正会法則に「南無楊柳枝・楊枝香水・楊枝守護・楊枝導師」とあり、これが、ネコヤナギを使用する理由です。

弘法寺修正会法則に「南無楊柳枝・楊枝香水・楊枝守護・楊枝導師」とあり、これが、ネコヤナギを使用する理由です。

弘法寺修正会法則に「南無楊柳枝・楊枝香水・楊枝守護・楊枝導師」とあり、これが、ネコヤナギを使用する理由です。

仏像心木



- ・ 塑像（そぞう）と呼ばれる仏像の製作技法があります。粘土で造るものです。盛り上げて造形する技法の代表で、白鳳～天平時代に流行しました。
- ・ 木を組んで心木を作り、縄を巻いてから土を2～3層に分けて盛り、造形します。
- ・ 日本三戒壇院の一つ、九州大宰府にある清水山観世音寺の不空絹索観世音塑像心木です。奈良時代を代表する心木です。高さは1メートルもあります。

大山祇宮(愛媛県今治市大三島町宮浦3327)

生土祭・真那比木



- ・ 福木に「大山祇神社・真那比木」と書かれています。
- ・ 福木の材質が「真那比木」です。
- ・ 備前西大寺の「宝木」の前の古字は「真木」です。
- ・ 「真那比木」が語源です。
- ・ 「那比」とは、「儼火(なひ)」の字音仮名遣いです。
- ・ 「儼(な)」、つまり、「悪鬼(病気・疫病)を払うために 焚く火」を意味しています。
- ・ 「真那比木」の「真」の解析が必要です。
- ・ 「那比」から連想されるのは、那比大神(岐阜県郡上市八幡町那比)です。

重要な心木・ネコヤナギ

- 成就寺(岡山市西大寺原)の「執(と)り牛玉」
西大寺観音院修正会の2座のうち1座が成就寺です。
修正会に使用する「投下しない牛玉」が「執(と)り牛玉」です。
「牛玉宝印を遠方の参拝客に投げる時、住職の一番身近にあった木の棒が「執(と)り牛玉」でした。
- 西大寺観音院 元和2年(1616)と推定
- 西大寺会陽記録保存報告書に、『投げ牛玉は、枝牛玉、串牛玉とも云い、一般的には「くしご」と称され、柳の木を・・・宝木の残り材をもって作ったという意味もある。』と言う重要な記録が有ります。
最古の、1616年の古シングの材質を調査したところネコヤナギでした。
- 千手山弘法寺(瀬戸内市牛窓町千手)「金剛界曼荼羅供養会」
明和9年(1772)の心木です。もっと古い心木が1本有ります。
材質はネコヤナギです。弘法寺修正会法則に「南無楊柳枝・楊枝香水・楊枝守護・楊枝導師」とあり、これが、ネコヤナギを使用する理由です。

成就寺・「執牛玉」



- 西大寺観音院修正会の2座のうち1座が成就寺薬師堂の分です。1719年(享保4)に雲翁により本堂が再建されました。
- 再建時に成就寺(常住寺・廃寺)の薬師堂が観音院境内に移転。
- 修正会に使用する「投下しない牛玉」が「執牛玉」です
- 「牛玉宝印を遠方の参拝者に投げる時、住職の一番身近にあった木の棒が「執牛玉」でした。

西大寺観音院

元和2年(1616)と推定

『シンギの材質がヤナギ』と云う重要な寺院伝承があります。



最古、1616年(元和2)と推定される古心木を調査したところ、材質はネコヤナギでした。

奪い合う前、授与時代の心木です。



重要な真木・ホウノキ

異質で軟質な真木・西大寺円満院会陽

- 大正9年・岡山市発行「岡山市史全」の「安住院会陽」に「此時上道郡西大寺の会陽に使用すべき真木をも切断す」とあります。
- **真木の製作**
会式の当夜右真木の外、無数の串午王(厚朴の木を細片となし午王法印なる守札を以て巻きたるもの)をも併せて御福窓より投ずるものとす。』(寺伝)とあり、江戸時代には、西大寺会陽の真木は安住院にて採取されていたこととなります。
- 異質で軟質な二本の真木は、観音院会陽ではなくて、西大寺円満院会陽で授与されていた「ホウノキの真木」です。
- 1786年(天明6年)の箱書は、「御牛玉真木」です。真木が使われています。
- 重要なのは、「無数の串午王(厚朴の木を細片となし)」との記録です。
- **【ホオノキ】**(和厚朴・ワコウボク)モクレン科
- [生薬] [薬用]和厚朴(ワコウボク)は利尿、収れん、去たん薬で胸腹部の膨満、せき、たんなど水毒に1日5~8gを水500ccで煎じ1日3回に分服する。

安住院会陽・ホウノキの葉

- ・ 1792年（寛政4）の真木



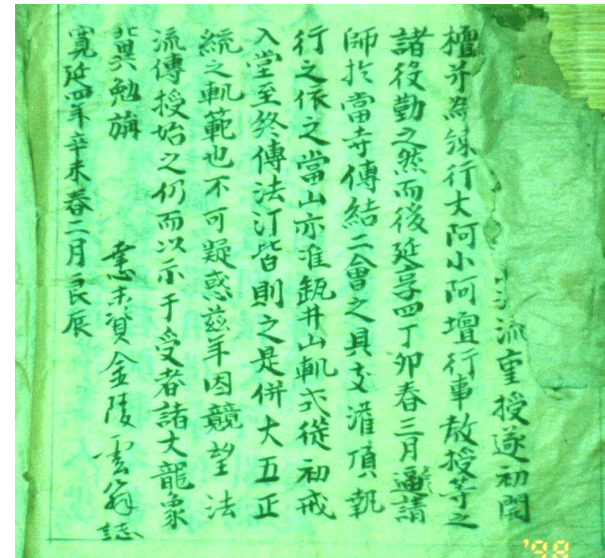
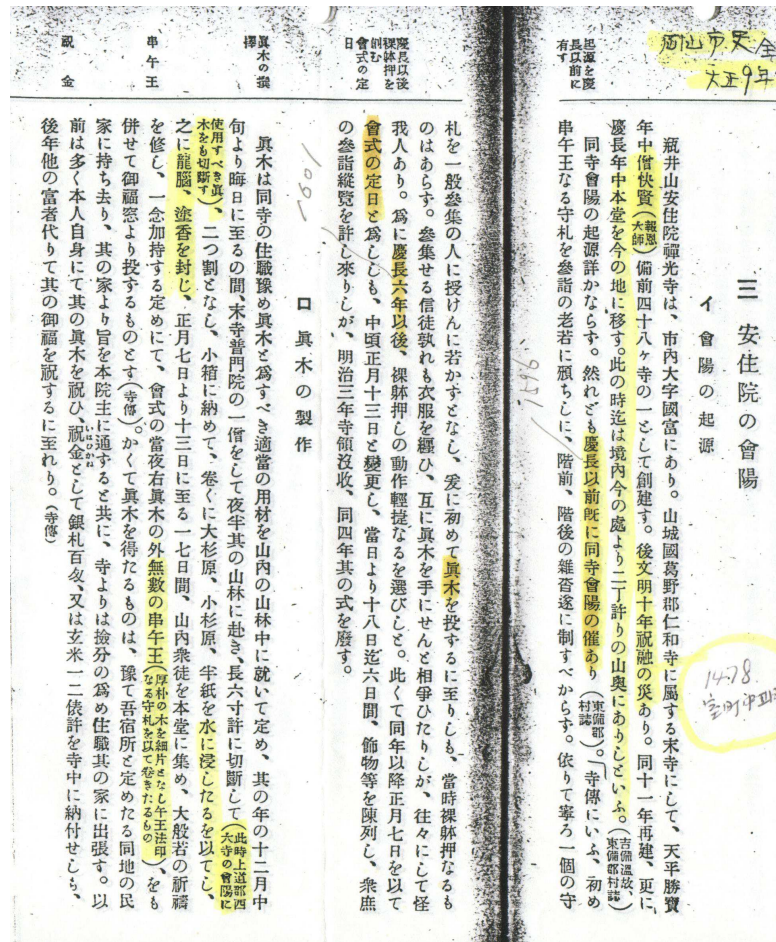
西大寺円満院会陽

- 西大寺円満院会陽では、江戸時代から明治12年頃迄、操山で採取した「ホウノキの真木」が授与されていました。
寛政9年(1797)・御牛玉真木



- 「1786年(天明6年)の御牛玉真木と「五穀・五宝・五香・五薬」が発見されました。
- 息災護摩壇料であり「息災護摩法」を意味しています。円満院会陽は「息災護摩法による心木授与」です。奪い合いはありません。

大正9年・「岡山市史全」・「安住院会陽」 安住院と備前西大寺の交流記録



西大寺普門院文書・備前国西大寺縁起に登場する雲翁の寛延4年(1752)の安住院との交流記録です。雲翁は備前西大寺を再建し、金陵山修正会法則を改定し、会陽の基礎を確立した住職です。

重要な真木・アオキの葉

恩徳寺会陽

- 「大きな葉っぱ」が付いています。難波早苗先生(植物生態学)が、「アオキの葉」と断定されました。
「大きな葉っぱ」が発見されたのは、恩徳寺・瓶井山禅光寺安住院・南斗山金舗寺普門院の3ヶ所です。過去の会陽研究論文・会陽紹介には、葉っぱについて記載されているものはありません。
- この「大きな葉っぱ」の発見が私の「仏教医学説」の原点です。
陀羅尼助(だらにすけ)には、アオキの葉のエキスが成分として使用されています。
- 真木に地蔵大菩薩とあります。現在の恩徳寺には地蔵大菩薩はありません。薬師如来の前の本尊が地蔵大菩薩でした。
『吉備温故秘録』に「瓶井山 応永2年(1395)改宗真言」とあり、沢田寺も「真言に改宗。本尊も薬師に改む」と記録されています。
現存する最古の真木かもしれません。

恩徳寺会陽・アオキの葉

- 「大きな葉っぱ」が付いています。難波早苗先生(植物生態学)が、「アオキの葉」と断定されました。



- 「大きな葉っぱ」が発見されたのは、恩徳寺・瓶井山禅光寺安住院・南斗山金舗寺普門院の3ヶ所です。
- 過去の会陽研究論文・会陽紹介には、葉っぱについて記載されているものではありません。
- この「大きな葉っぱ」の発見が私の「仏教医学説」の原点です。

枝牛玉・ネコヤナギ・歯木

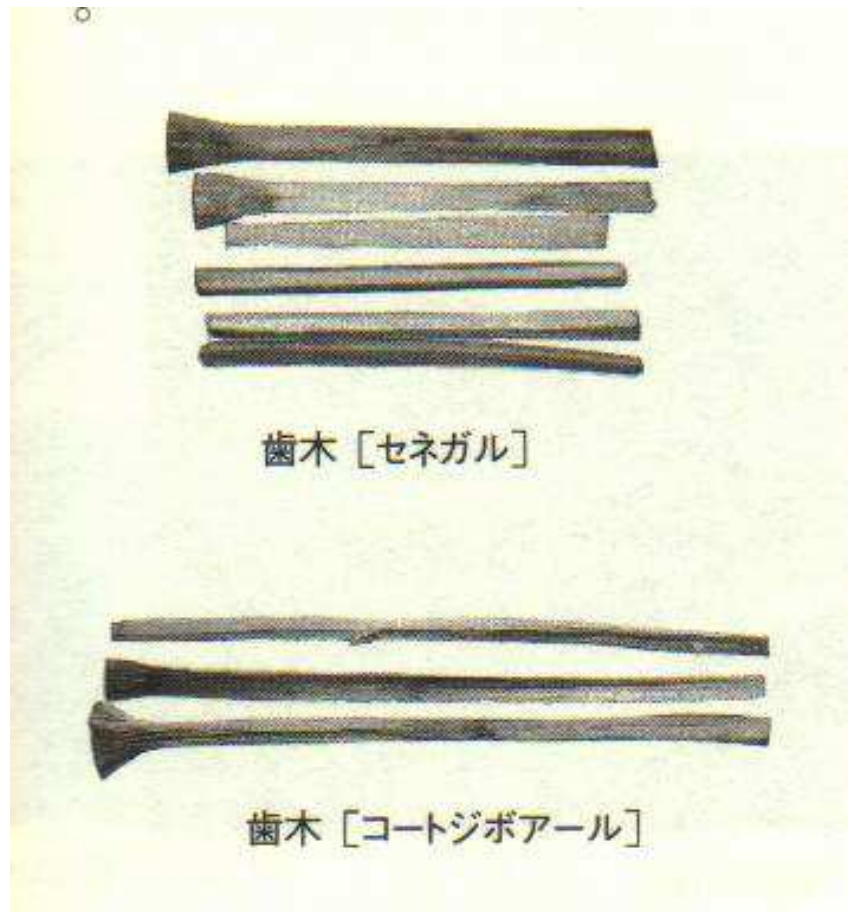
- 天明4年(1784)の枝牛玉です。宝木争奪戦の前に「枝牛玉の争奪」が行われます。枝牛玉の形状は割り箸に似ています。現在では、枝牛玉を取得しても何の価値もありません。私は奪い合うのだから、昔は「奪い合うだけの価値があった」と考えました。大正の初め頃までは、当日世話方が集まり、牛王串(串牛玉・枝牛玉)を本堂に運び、本尊の左右の須弥壇上に積み上げる事が主な行事であり、その数は3万本もあったと言われ、昭和の初め頃までは寺内で、事始の事を「牛玉積み」と言っていました。3万本とは参詣者の全てに1本ずつ授与可能な数量です。西大寺会陽で一番重要な行事が「枝牛玉の授与」でした。
- 枝牛玉の材質であるネコヤナギと形状に注目し、同一形状の物を探し発見しました。西アフリカの「コートジボアール共和国とセネガル共和国」にありました。それは、歯木(歯ブラシ)でした。大阪の国立民族博物館蔵の「御楊枝高野山奥の院」も同一です。
- 歯木(楊枝)は僧侶の戒律としての仏具です。

天明4年(1784)・投(枝)牛玉(齒木)



- ・ 西大寺観音院
- ・ 千手山弘法寺
- ・ 室山満願寺
- ・ **投(枝)牛玉**の材質であるネコヤナギと、その形状に注目しました。
- ・ 江戸時代の枝牛玉の発見は貴重です。

西アフリカ・歯木(歯ブラシ)



- 枝牛玉の材質であるネコヤナギの形状に注目し、同一形状の物を探し発見しました。
- 西アフリカの「コートジボアール共和国とセネガル共和国」にありました。
- それは、歯木(歯ブラシ)でした。

御楊枝・高野山奥の院



- 大阪の国立民族博物館蔵の「御楊枝高野山奥の院」も同一形状です。
- 歯木(楊枝・歯ブラシ)は僧侶の戒律としての仏具です。

カワ(ネコ)ヤナギの薬効

『原色牧野和漢薬草大図鑑』

- 枝 消炎・利尿・鎮痛・去風の効果があり肝炎・黄疸に使用。
葉 清熱利尿解毒の効果があり、乳腺炎・尿白濁・高血症に使用
花 止血作用があり、吐血・血便・血尿などに使用。
根 利尿・去風薬として、水腫・排尿痛・黄疸・リウマチに使用
樹皮、根皮からコルク皮を除いたもの
消炎・鎮痛・去風の効果があり、黄疸・リウマチなどに使用。
- 薬用部分 樹皮 根 葉
成分 配糖体のサリシン、サリチル酸、タンニンなどが含まれます。

薬効と薬理

タンニンを含み、収斂、解毒、利尿などの作用があります。
また、サリチル酸類による殺菌作用等もあります。

- 歯木使用は、古代のインド伝統医学・アーユルヴェータ医学です。
生木を使用します。インドの歯木はニームです。
- ニームは村の薬局と呼ばれています。万能薬です。

備前西大寺の初見・1300年

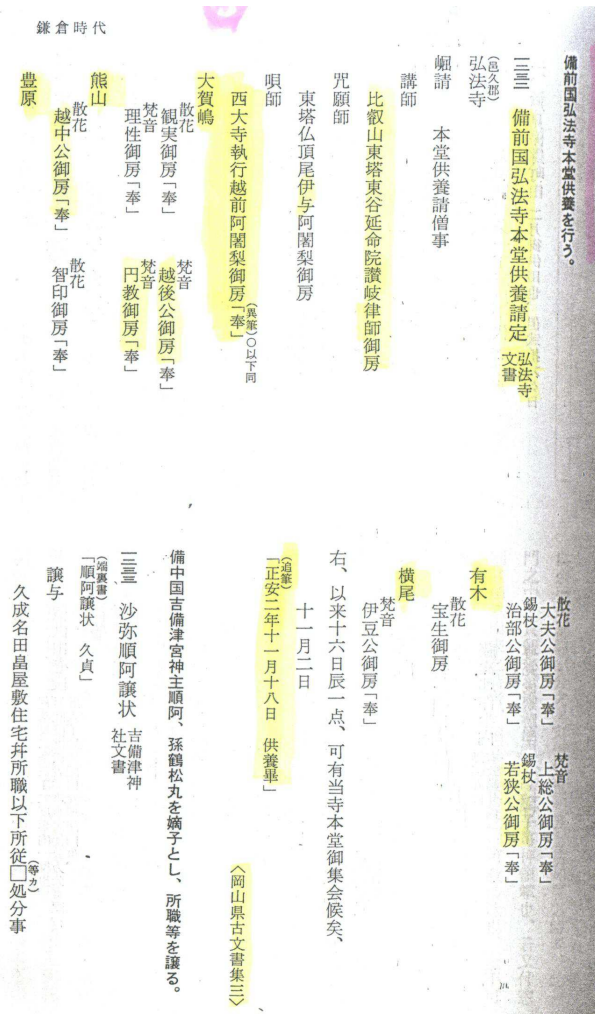
千手山弘法寺と備前西大寺

備前西大寺の初見は弘法寺文書
正安2年(1300)の『備前国弘法寺本堂供養請定』です。

- 『唄師 西大寺執行越前阿闍梨御房奉』とあります。
- ① 唄師・西大寺執行とは執行委員長の意となります。
- ② 講師 比叡山東塔東谷延命院讃岐律師御坊とあり
- 南都西大寺の「西大寺本末寺衆首交名」に延暦寺金亀とあり、比叡山東塔東谷延命院は真言律寺院です。
- ③ 他の参列寺院は大賀嶋・熊山・豊原・有木・横尾です。

備前西大寺の初見文書

1300年・弘法寺文書



阿弥陀寺と松中島

南都西大寺の末寺、額安寺が金岡東荘に作った寺院が**阿弥陀寺**です。岡山県の文献史料には阿弥陀寺の記録がありません。

『大和郡山市史・資料集』に『備前国金岡東庄文書』が収録されています。1258年～1364年の古文書です。

元享2年7月(1322)の『阿弥陀寺沙弥瀧春申状』です。

阿弥陀寺は、弘安2年(1279)～元享2年(1322)に至る44年間存在しました。

阿弥陀寺とは金岡本庄、備前大橋の上流300メートルの所にあった「**松中嶋**」のことです。

阿弥陀寺沙弥瀧春申状

元享2年7月(1322)

『大和郡山市史・資料集』に『備前国金岡東庄文書』が収録されています。1258年～1364年の古文書です。

阿弥陀寺は、弘安2年(1279)～元享2年(1322)に至る44年間存在しました。

現在、郡山城史跡 柳沢文庫保存会が保管しています。

私は、この記録を頼りに阿弥陀寺跡を探しましたが、金岡東庄推定地内には有りませんでした。

○二八一―一八 瀧春申状

○大和額
安寺文書

(大和)額安寺□付御吉事、阿弥陀寺沙彌瀧春謹言上上宮王金岡東御

庄□御事、弘安二年_{己卯}・同九年_{丙戌}御堂草創也、号阿弥陀寺者、

自弘安二年至于元享二年_{壬戌}首尾四十四年也、是額安寺興復者、

天下豊樂也、仰以雨花天下、開示悟入之瑞相也、照一光十方、

勝縁一乘之先表也、然則、兼上宮王御坐事、當庄者、額安寺

可爲發願之旨、明文如此、將又春日社御領者、奉渡若宮、東

大寺御分者、八幡改願、是皆處々通例也、此阿弥陀寺奉安置

上宮法王并十五社種子之後、年久、就中、自額安寺寺文保元

丁三段所當米御寄進上宮王、同年十一月十五日阿弥陀寺改轉

之、定律院畢、雖然、僧食難堪之間、毎月十五日梵網說戒許

也、抑愚身壯年之比、南北二京雖訪知識、鈍痴之到、面不向

明鏡、心不知實義、今老邁七十七、露命不知今日明日、仰高

察無慈悲、指下僧一人、被住持阿弥陀寺者、我願既滿、被讀

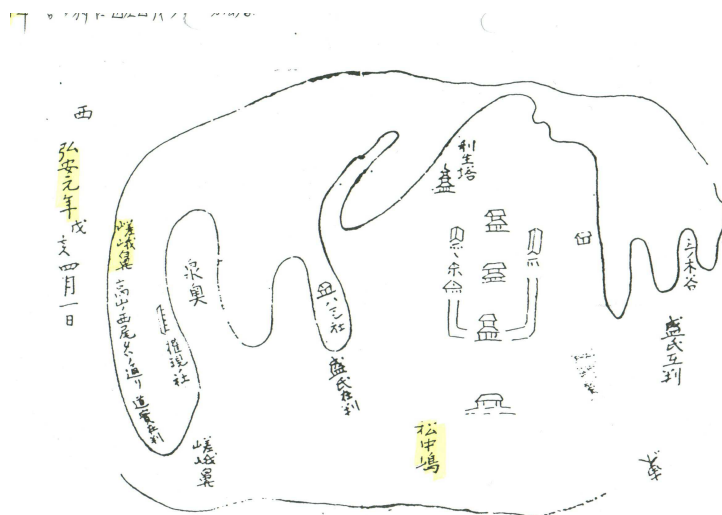
誦御製義疏者、衆望亦足、仍恐惶謹言上、

元享二年七月 日

阿弥陀寺と松中島(1278年)

キリークの謎

- 黄微古簡集(1792年)収録の「備前国福岡庄 吉祥寺文書」の古図に「松中嶋」があります。



(編者注)
「所蔵も写也、故に在判と書のみ、按に、右文章の内ニ文とあるハ、此類を云歟」

江戸時代の「寶木の巻紙」に「阿弥陀如来の種子・キリーク」が書かれています。

「西大寺観音院の本尊は千手観音なのに、どうしてキリークが書かれているのでしょうか。」

「弥陀如来を本尊とする寺院が備前西大寺のルーツだと考えました。祖師信仰です。」

阿弥陀寺は金岡本庄の備前大橋の上流300メートルの所にあった「松中嶋」です。松中嶋は1440年の勸進帳、1496年の漢文縁起に記録されておられません。

ハンセン病と 1440年・備前国西大寺勸進帳

- 古代から「癩」差別と宗教の教義は深く関わっていました。
勸進帳に三回ハンセン病患者「癩人」が登場し、**岡山県のハンセン病の初見史料**です。
- この勸進帳が、活字化されたのは、**昭和22年**・吉備文化研究会発行・限定100部の「備前西大寺文書」です。津下猛氏の斡旋で当時の鼓義算観音院住職が始めて公開したものです。
江戸時代の地誌や寺社奉行所の記録には公開されていません。
この勸進帳にて、備前西大寺中興の祖が「宥長」であることも初めて公開されました。
私の研究にて、**南都西大寺との江戸時代の交流記録が発見され**、鎌倉・室町時代の備前西大寺は南都西大寺が直接支配する末寺であったことが証明されました。
「**西大**」を「**南都西大寺**」と**解説**するだけで参考文献は数多あります。
- **犀角**をスッタニパータ(犀角経)・「一人歩む修行者の意」と解説しました。

1440年・備前国西大寺勸進帳

「1440年の備前国西大寺勸進帳」が岡山県における「ハンセン病の初見史料」です。お布施を集める為の勸進帳に三回「ハンセン病患者」が登場し、庶民の合力により備前西大寺が再建されました。

私は1440年の備前西大寺は「ハンセン病に対する一切の差別の無い仏国土であった」と考えます。

「一切の差別の無い仏国土」と言う根拠は、快尊と宥長の思想・哲学である「荘子の胡蝶の夢・万物斉同」、「仏陀の犀角経」の教えにあります。南都西大寺中興の祖、叡尊と忍性の悲華経の「見仏」の教えを基礎にした釈迦信仰・文殊信仰が快尊と宥長の思想・哲学となり受け継がれていました。

備前国西大寺勸進帳なる。
 一三五 備前国西大寺勸進帳 西大寺
 本寺千手薩埵者、防州久河庄庄司妻皆足藤氏、夙志薰染、
 欲肖安千手大士像年久矣、懇念所感、一日□童來、号仏
 工而彫削焉、臨去、藤氏問其居、工笑曰、長谷者我依郷也云々、
 寔当天平勝宝三年二月八日也、藤氏欲採繪素像且備長
 谷尊者、船而東矣、時庄司任備州主簿在府第、藤氏泊船於
 金崎浦而過府、留數日、解纜待出船、黏而不動、藤氏驚愕、
 出像於船、著于岸上、而後船洋々然也、不獲已、乃召匠氏、
 規船膠之地、草一字、以奉大士焉、略繪而記 □天平勝宝三
 年至今七百有餘歲、此邦民人何其幸乎、普門撰化広矣深矣、
 奚去歲己未孟種初八寅有鄙夫蒼而空々如也、語沙門宥長曰、
 今月初三己未夜夢顯人數輩來云、我是西大之使令也、汝可以
 瓦葺我殿宇也、某高曰、鄙賤之身非力之所及、即授孔方四
 百字曰、以是与宥長法師則可成功也、覺後、因他事、鷓鴣
 過西大之門外、記夢事、欲語大士、忽於二王堂、拾得阿堵

物如夢、某默而秘之、同六日子夜又夢顯人來而激怒曰、汝
 何違命乎、某戰慄而跪、覺猶冷汗浹背、是故相施、言畢而
 去、鄙夫之夢、雖似涉妄誕、孔方之驗、又無猶予欺、諸大
 士以夢示人、古今不異、況又至龜八年、安陸上人者來云、
 夢長谷施無異薩埵告我云、上人當改備之西大堂基、故持來
 此地耳、即移堂於今地、從兒嶋南浦樵戶海中得犀角、埋之、
 蓋隨意識也、因号犀戴、或曰、今云西大者、改于應院御
 製之葺而已、夫人間事々無不夢幻、莊周胡蝶々々莊周、若
 然者、鄙夫之夢、不可間然也、殊現顯人者、吁亦可怪焉、
 諸聖方便、此格尤多、但薩埵之深旨、不可得而測度、於是
 宥長抑扣十方之檀門、欲隨大士之嚴命也、伏願
 上而明主重臣、中而文武諸官、下而士農工商、豐儉隨分而
 樂施、則即見瓦溝依然而歷億万年之居、諸弘誓広大而成十
 方界之化度、然則人々非唯種大善根于福田中、箇々直入聞
 思修之三摩地者也、疏曰、西大地盡示普門勝絶之境、一夢
 希有彰薩埵慈悲之深、其奈日月蓮陀、欲及大廈廢壞、要見
 四簷輪奐之碧瓦、須憑十方英種之香銅、童子聚沙猶成菩提

嘉吉元年(1441)

果、信心破蓋登妙覺場、豈云小補哉、諸君皆勸助、
(十二年戊辰)
 永享菴集申戊夏月
 幹録沙門宥長敬白

証明 親自在菩薩

一 緣起 一 勸進帳 一 判形絵共
 丁卯年卯月下旬 備州児嶋小串浦 文殊院

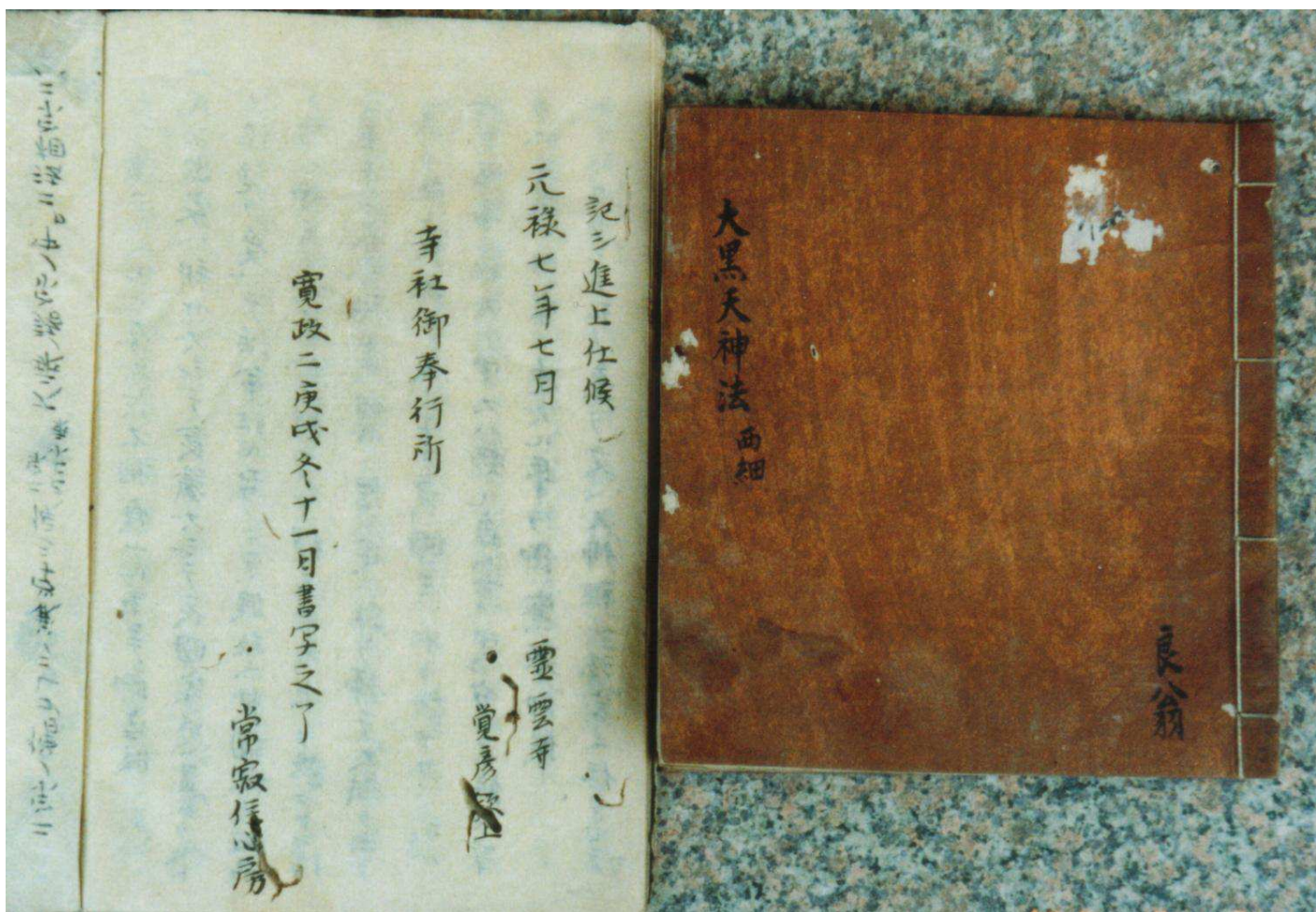
快尊(花押)
 <岡山県古文書集三>

南都西大寺との交流記録の発見

金陵山西大寺普門院文書

- 備前西大寺(金陵山西大寺)には二つの寺院があります。
 - ① 金陵山西大寺 観音院
 - ② 金陵山西大寺 普門坊円満院(普門院)
- 南都西大寺の末寺として備前西大寺の地名の基になった現存する寺院は、「金陵山西大寺 普門坊円満院(普門院)」です。
- 南都西大寺との交流記録として、現在までに確認したのは下記の墨書です。
 - 文政13年(1830)『大黒天神法 西細』
- 南都西大寺を、鎌倉時代に再興した興正菩薩叡尊の名前が見えます。「興正菩薩御相伝秘訣」と有り、南都西大寺との交流を証明する記録です。備前西大寺・良翁とは、普門院の中興の祖です。
- 寛政2年(1790)『真言律宗事』
- 『真言律宗事』は、寛政2年(1790)に、寺社御奉行へ提出した写しです。内容は、1694年(元禄7)に靈雲寺・覚彦(1639~1722)が作成した文書の写しです。靈雲寺は、南都西大寺の江戸湯島にある触頭寺院(ふれがしら)です。触頭寺院とは、徳川幕府に対する南都西大寺の江戸出張所の意です。現在の真言宗靈雲寺派総本山・宝林山大悲心院靈雲寺(東京・湯島)です。

文政13年(1830) 『大黒天神法 西細』



寛政2年(1790) 『真言律宗事』



南斗山 金舖寺普門院

- ・ 弘法寺修正会法則、『捧たる花枝の三つに開けたるも理りなり。』
- ・ 此花は天上の莫義の妙薬なり。」
- ・ 准胝観音法の正式作法
- ・ 大きな葉っぱ
- ・ お香の粉



まとめ-1

- 1 会陽の起源は、僧侶の生活を律する歯木の一般信徒への授与より始まりました。僧侶達の律、つまり、歯を磨くという習慣を一般信徒まで拡大し、真言宗の布教に利用しました。
- 2 千手千眼観世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經(国譯秘密儀軌)に「若し身上の衆病を消除せんと欲はん者は、常に楊柳葉の法を修すべし」「若し身上の種々の病の為ならば、常に楊枝の手においてすべし」と、解いております。
- 3 3要素がそろって古い形態です。
 - ① 修正会法則があるか。
 - ② 牛玉加持作法があるか。柳の加持があるか。
 - ③ 心木の材質・枝牛玉の材質は何か。柳の枝か。私は心木の形態を、加工材の「工夫改善」という立場から解析しました。
 - 一番古い形態は「一番素朴な」、「樹皮を取り除いただけの丸棒」「歯木である枝牛玉」のある寺社が最も素朴な古い形態です。

まとめ-2

- 現在迄の調査範囲では、
- 1 心木の形状 2 枝牛玉の形状 3 枝牛玉の材質 4 修正会法則の内容から考察し、「会陽の発祥寺院」は「千手山弘法寺」となります。
- 重要なのは、千手山弘法寺の「本尊が千手観音」であるということです。
- 千手観音に関する最も重要な仏典が、「千手千眼観世音菩薩治病合薬経」と「千手千眼観世音菩薩大悲心陀羅尼経」です。千手山弘法寺の修正会法則が、「千手千眼観世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼経」で書かれており、「会陽の発祥寺院」は「千手山弘法寺」となります。
- 宝暦年間に現在の会陽の基礎を確立したのは、備前西大寺の雲翁です。
- 「西大寺会陽に参加するとその年は風邪をひかない」という伝承があります。ヤナギに含まれているサリシンから鎮痛解熱剤のアスピリンが創られました。ヤナギのサリシンが歯木(枝牛玉・歯ブラシ)から体内に吸収されます。

西大寺観音院・中興の祖

門前町西大寺復興と鼓義算大和尚



- ・ 日比観音院・岩崎増修住職の教示
- ・ 静岡寺光明院・藤田旭現住職の教示
- ・ 「現在の西大寺があるのは鼓さんのおかげである」
- ・ 時代背景と鼓義算大和尚の業績
- ・ 墓標「寺門興隆ニ功績多大也」
- ・ ① 神仏分離と廃仏毀釈 明治元年
- ・ ② 山陽新報・明治13年の「宗教排斥論」
- ・ ③ 山陽新報・明治19年の「会陽廃止論」

門前町西大寺復興の大功労者

鼓義算大和尚の業績



- ・ 昭和16年（1941）4月19日撮影
- ・ 最大の業績は明治33年の『備前西大寺縁起』で皆足媛伝説を創作したことです。
- ・ 江戸末期、1854年に観音院本堂焼失、本尊千手観音も焼失しました。つまり、本尊縁起も本尊と共に焼失しました。
- ・ 観音院住職は新しい本尊縁起が必要になりました。皆足媛の誕生です。安隆の出身地も「紀伊の国の高屋の里」と創作しました。「高屋の里」とは高野山をイメージしての創作です。
- ・ 明治33年2月13日山陽新報附録の「西大寺会陽・特集号」等「これからの時代は新聞を宣伝手段として利用すべきである」と岡山県内で新聞の重要性に気付き、新聞を最初に宣伝媒体として利用した時代の先覚者です。
- ・ 「宝木取り行事」等、会陽を現在の形に完成させ「松中島」等、現在西大寺で定説とされている歴史は全て鼓義算と、そのグループによる創作です。
- ・ 門前町西大寺の町起しは、鼓義算の業績調査からスタートすべきです。